

【アダンの実の話】

昔、神里村に一人のノロがおった。このノロには兄がいて兄妹仲良く暮らしていたそうだ。



ある夏、この妹のノロがおなかに赤ちゃんができたので、兄にアダンの実が食べたいと言ったそうだ。しかし、結婚を許されていなかったノロに赤ちゃんができたので兄はおどろき、そして怒り、その実を妹にあげなかった。どうしても、アダンの実が食べたい妹は、もう一度兄に頼んだ。兄は怒って、妹にあげずに他の人々にあげてしまったそうだ。



兄の仕打ちに怒った妹は、「なんでケチケチしてアダンの実をくれないの。わたしの呪いでアダンの実ができないようにしてやる。わたしの呪いは深いから、これからずっとアダンの実は、できないだろうよ」といった。その後、その地にはおびただしいアダンの木はあるが、実を結ぶものはなかった。
(1745年王府編纂の『遺老説伝』より)

絵：とうまゆきこ
(南風原文化センター学芸員実習生)

神里プロフィール

人口(男)…475人 世帯数…365世帯
(女)…437人 面積…76.7㌥
合計…912人

2011(平成23)年10月末現在



うちいではわくのしつらいがふし訳
おもろ音揚がり宣るむ音揚がりは、お祈りします。首里杜にまします尚真王様は、立派なかたである。国の中心の神里の下司たちが信頼し敬愛する按司様であることよ。

発行：特定非営利活動法人南風原平和ガイドの会
住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257
南風原町立南風原文化センター内
電話・FAX：098-889-2533

平成23年 沖縄県雇用再生特別事業「シマジマガイド事業」

いにしえの御愁を誘う里

神 かもざと 里



うちいではわくのしつらいがふし
一 おもろねやがりや
せるむねやがりや
げすのうれしかなしてだ
又しよりもちよわる
おぎやかもいかなし
又しまなかのかみ里の
「おもろさうし」第八巻412の20
外間守善 校注

神里カンサー(松又根グイ)



改善センターの綴帳

神里の人は松ぼっくりのように(カンサーを松の幹にできた凹凸だという人もいる)かさかさとおっさりした性格で松の木の根っこのように頑固で意思が固い。外部に対しては堅く殻を閉ざすが、内部では団結する字の気風を示しています。

神里のカー(井戸)拜み

神里では昔から多くの井戸を大切にしてきました。今でも拜まれています。

- ・世理の神屋 (屋敷の井戸)
- ・新屋の神屋 (屋敷の井戸)
- ・仲門の隣のシーシガー
- ・田本の神屋、隣の井戸
- ・ウブガー (フスミーガー)
- ・トゥヌガー (トゥンの側)
- ・イルジガー (道路に埋まっている)
- ・ヌールガー
- ・ダキドゥンガー
- ・ミートゥガーa
- ・ミートゥガーb
- ・ダキグサイガー
- ・トゥンチガー
- ・ウビーガー
- ・リンドーガー
- ・アブガー

シーサー



神里の獅子舞はムラの人たちにとって特別な存在です。現在字で使用している獅子は戦後3代目で、戦争により獅子を失いましたがアメリカ帰りだった照屋栄松(てるやえいしょう)氏などの寄付により戦後1代目が作られました。

王朝時代、獅子は王府から各ムラに捧げられました。神里の獅子は額に「月」が描かれた雌で、本部と雌雄一対といわれています。

獅子の保管はもともとは「仲門(なかじょう)」家がおこなっていました。「田本」家には代々男の子が一人しか生まれず家系は繁栄しませんでした。一方仲門家は男の子が大勢生まれ繁栄していたのを見た田本の人々が「あなたたちは獅子を崇めて繁栄している。私たちにも貸してくれないか」と頼みました。田本家が保管するようになると田本家にも男の子が増えて繁栄したそうです。

エイサー



神里エイサーは、1985(昭和60)年に玉城村奥武に指導を受けて始まりました。現在は旧盆のウークイと旧正月に4カ所で道ジュネー(村廻り)をして、盆踊りの際にナカミチで踊っています。旗頭を先頭に大太鼓、パーランクー、滑稽踊、女踊りで構成されている。



イラスト: 嘉数 聡

④タカヤヌトゥン(高屋之殿)



『琉球国由来記』に記されている拝所のひとつ。中山(中城)と北山(今帰仁)へのウトウシ(遥拝所)として重要な場所です。上間之殿、中之殿と同様に合祀され、その後、元の位置(現位置)に戻されました。

⑤ウガンモー(御願毛) 神里ふれあい公園



聖地「神里之嶽」がある。『琉球国由来記』に記されている拝所のひとつ。現在は「神里ふれあい公園」と姿をかえ町民のいこいの広場になっています。

⑥ウィーヌドゥンチ(上ノ口殿内)



お宮と呼ばれ、集落の北側にあります。1959(昭和34)年、茅葺から石積み、さらに1978(昭和53)年、石積みからコンクリート造りへと改築されました。管理は隣の野呂殿内が行っています。

⑦イーヌトゥン(上間之殿)



トゥンヌグーとも呼ばれ世理の管理です。祭事に六月ウマチーがあります。

③ナカヌトゥン(中之殿)



『琉球国由来記』に記されている拝所のひとつ。1942(昭和17)年、上ノ口殿内に移され合祀されたが1991(平成5)年に元の位置(現位置)に戻された経緯があります。

②皇紀2600年の石敢當



1940(昭和15)年に皇紀2600年を記念して造られました。

①公民館(サーターヤー跡)

「公民館」または「改善センター」と呼ばれていますが正式名称は「神里構造改善センター」です。1989(平成元)年に昔のサーターヤー跡に新築しました。

⑩画廊沖繩

県内外で美術ファンから注目を浴びる現代美術の画廊です。年間4回の企画展は毎回「今」を見据えた気鋭の作家がとりあげられています。常設展はしていないので注意してください。

⑨赤がわら屋根の民家



1957(昭和32)年の建築物。赤がわら屋根の建物では神里で最も古い建物です。

